

### 猛威を奮う新型インフルエンザ

新聞を見ても、テレビのニュース番組を見ても、新型インフルエンザのことが報じられない日はありません。学級閉鎖や学年閉鎖、学校全体を休みにする休校措置が連日報じられています。また、先日(11月16日)の山日新聞では休校や閉鎖に伴う授業時間数の確保のため土曜日に登校している双葉中や、7校時を設定した敷島中の例が紹介されていました。それ以外にも学園祭の振り替え休日を登校させたり、冬休みを少なくして対応している県内の学校の例が紹介されていました。

また、各校とも学校行事が大きな影響を受けています。本校では音楽発表会は無事終わることが出来ましたが、18日(水)に予定していた体育集会はインフルエンザの流行もあり延期になりました。どの学校もインフルエンザ対応に迫られ、その中での授業時間数の確保、教育活動としての学校行事の実施に頭を悩ませています。

新型インフルエンザは季節性のインフルエンザと違い、一年中流行しているのですから始末が悪いです。現に春の修学旅行の頃も、全員がマスクをしている修学旅行団に出会いましたし、途中で旅行を切り上げ一泊(2泊の予定を)で帰ってきた甲府の学校もありました。

今年はこれまで実施してきた学校行事の実施が大変難しくなっています。今年だけが特別な年なのか、それともこれから毎年、このような新しいインフルエンザへの対応に頭を悩ませるのか、と考えると気持ちが憂鬱(ゆううつ)になります。沈み込んでいても仕方がないので、インフルエンザから自分自身を守る方法を考えてみたいと思います。私も含め多くの方が何となく感じている素朴な疑問です。

#### ○どうして罹患する人とそうでない人がいるのでしょうか。

病気の人に接しても、発病する人とそうでない人がいます。「新型」ということなので、このウィルスには誰も免疫を持っていないはずですが。なのに、ウィルスが体内に入っても、ほとんど影響を受けない人がいる一方、高熱を発し寝込まなければならない人がいます。この違いはどうして起こるのでしょうか。現在言われていることは、「その時のその人の体の状況、体調が影響する」ということです。

例えば、マスクをしていた、石けんで手洗いをした、早めに眠り十分な睡眠を取った、そのような対策が発病を防ぎ、また発病しても軽い症状で乗り切ることに繋がる、と言われています。また、規則正しい生活、バランスの取れた食事、十分な睡眠も体の抵抗力を高めるそうです。

ただ、どんなに気をつけてもインフルエンザに感染し寝込むことになることもあります。その時は、病気になったことを嘆くのではなく、気持ちを切り替え「良く効くワクチンを接種された」と考えることも必要です。(一度罹患すると体がそのウィルスに対する抵抗力を持ち、同じウィルスには再び感染しないようになる、といわれています。)

明日から学校は県民の日を含め4連休になります。家族で外出を、と考えているご家庭も多いかと思います。ですが、このような時節柄、疲労が残るような無理な遠出は控え、時間的にも日程的にも余裕のある行程での外出を心がけたいものです。

### その反論に耳を傾けますか

学級でこんなことがあったら、私たち教師はどのように対応するでしょうか。この話は、私が若い頃、友人から聞いた話です。今から20年以上昔の話となります。その学校は小学校には珍しく児童に制服(標準服)があり、また規則が大変厳しい学校でした。その学校で、日曜参観がありました。日曜に学校があると代わりに月曜日が休みになります。日曜日の朝、生徒指導担当から次のような指示が先生方にありました。「明日の月曜日は、学校が休みになります。しかし、休みだからといって子どもたちが街に出ると、今日は月曜日で学校がある日なのに、と補導されることがあります。月曜日の午前中は家庭学習を、ということで指導を願います。」

友人は、当時6年生の担任でした。朝の会で子ども達に生徒指導担当のことばをそのまま伝えました。すると、1人の男子(仮にA男)がそのことに異議を唱えました。「先生、それはおかしいと思います。ぼくたちは日曜日に学校に来た代わりに明日の月曜日がお休みになるのです。だから、月曜日でも普通の日曜日と同じだと思います。もし、誰かに尋ねられたら、『昨日、日曜学校でした。今日の月曜日はその代わりのお休みです。』と応えたらいいと思います。」

その発言に対し、友人は次のように話したそうです。

「今、A男が言ったこと、先生もその通りだと思う。B先生(生指担当)からの話は、話した通りだが、みんながA男の言うように、周りから尋ねられたら、しっかりと休みの理由を話すことが出来れば、先生はそれで良いと思う。6年〇組は、月曜日の午前中の家庭学習については強制しない、自分の判断で良いことにする。」

さて、ここで考えたいことは、この友人の判断は学校全体として考えたとき適切といえるのでしょうか。友人は自分の思いを私に語ってくれました。

- 学校全体として考えると、私のクラスだけが全体で決めたルールを破ったことになり良くないことだと思う。そのことには私も心を痛めている。
- でもA男の発言には感心した。私を信ずるからこそ、この先生なら、分かってくれと思ったからこそ、A男は発言した。私は、A男の気持ちを大切にしたい。
- 私は、言われたことに疑いもなく従うのではなく、自分の頭で考え、自分の心で判断出来る子どもを育てたい。

今、私が学校を預かる校長という立場で、この友人の行動を見たとき、どう考えるでしょう。賛否両論あるかと思いますが、私は次のように考えます。

学校全体としての約束事の大切さも分かりますが、ルールは子ども達を縛るものではなく、子ども達の健やかな成長を支えるものだ、と思います。「ルールを守ること」と「自分の頭で考えること」はどちらも大切なことですが、より根源的な価値としては「自分の頭で考えること」にあるのだと思います。学校教育のねらいは「自分の頭で考え、自分のことばで自分の考えを述べることの出来る子どもを育てること」にあるのだと思います。

ですから、子ども達の発言を頭ごなしに否定するのではなく、まずは、その言い分を聞いて欲しい、と思います。子どもたちの言い分を聞いていたらきりが無い、ということも考えられます。ですが、子どもたちの考えを頭ごなしに押しつけていては、いつになっても自分の頭で考え行動する力が育ちません。「ぼく(私)の考えを先生は真剣に聞いてくれた。嬉しかった。」という思いが周りの人の発言を大切にすることを育てます。難しいことですが、何でも言いあえ、それでいてお互いを大切にでき、みんなの心がしっかりと結ばれている、そんな学級づくりを願っています。